

【逍遙歌(宮面ヶ丘寮歌)前口上】

富貴名門の乙女に恋するを純情の恋であって
裏町の廊屋に住める貧しき乙女に恋するを
不情の恋であろうと誰が云う
雨降らば雨降る時 風吹かば風吹く時
コツコツと響きし靴の音に もしやあれは
神奈川大学宮面ヶ丘寮生ではないかと
胸をときめかすも客の手前
あまた多くの男性に汚されし唇を今日もまた
赤きルージュに染め誰を待つのかネオンの乙女

酒は飲むべし これ百薬の長
女買うべし これまた人生無情の快樂なり
胡蝶美人の膝枕 昨夜の未練さらさらなし
我は浮草 根無し草 明日の命を誰が知ろう
いざ高らかに唱わんかな神奈川大学宮面ヶ丘寮歌